

編集後記

「ノーベル賞受賞者、大村さん、梶田さんに学ぶ」

2015年、日本人2人が医学生理学と物理学でノーベル賞を受賞した。熱帯病をなくす薬を開発した大村智さん、宇宙をつくるニュートリノには質量があることを見つけた梶田隆彰さん。

大村さんは、定時制高校で体育と理科の先生をしていて、生徒の様子を見て自分も頑張らなければいけないと思い、夜は先生として教え、昼に東京理科大学の大学院に通って化学を学んだそうです。子どもの頃、祖母から「人のため役に立ちなさい。」と繰り返し言われ、「人のためになりたいという気持ちが人一倍強く、それが結果となった。」と話しています。

梶田さんのことを知る人は、「控えめで謙虚」「こつこつ努力する人」と話します。中学3年の担任は、砂が水を吸収するような理解力で成績はトップクラスだったと振り返っています。高校・大学時代は弓道にも打ち込んだそうです。同級生が受験勉強で引退する中、3年生でも弓道を続けたり、大学でも関東学生団体優勝メンバーとして頑張ったりしたそうです。

大村さんは、細菌などの微生物に興味を持ち、何か一つでも人のためにできることはないか、いつも考えてきたそうです。それが静岡県のゴルフ場の土で見つけた細菌が作り出す物質から「イベルメクチン」という薬を開発し、寄生虫が原因となり、目が見えなくなることもある熱帯病に大きな効き目を挙げています。

理科の学習で学んだことが実際の自然の中で成り立っていることや生活の中で役立てられていることを確かめたりすることにより、実感を伴った理解を図ることができます。ものづくり等を通して、理科を学ぶことの意義や有用性を実感し、理科を学ぶ意欲や科学への関心を高めることにつながるものと考えられます。子どもたちの「なぜ?」「どうして?」を大切に、理科好きな子が増えるような授業を考えていきたいものです。

さて、「理科教育のあゆみ」第54集の編集を終え、県内各地区からたくさんの貴重な実践やアイデアをお寄せいただきました。ご多用のところ原稿をお寄せいただいた先生方には、心より感謝申し上げます。今後も子どもたちの科学的な見方や考え方の育成を目指し、県内の先生方の実践を多数紹介し、日々の授業に生かせるよう、充実した「理科教育のあゆみ」を発刊できることを祈念します。

(参与 阿部英徳)

編集委員

会長 鶴谷 研 (仙台市立若林小学校)
参与 阿部 英徳 (仙台市立向陽台小学校)
編集委員長 市川 宏介 (仙台市立長町小学校)

地区委員

大河原 佐藤 良彦 (丸森町立大内小学校)
仙台 鈴木 直美 (岩沼市立玉浦小学校)
大崎 尾口 洋行 (大崎市立古川第一小学校)
栗原 佐藤 重博 (栗原市立志波姫小学校)
登米 須藤 士 (登米市立中津山小学校)
本吉 尾形 俊明 (気仙沼市立小泉小学校)
石巻 渡部 晃 (石巻市立渡波小学校)

仙台市 (常任委員)

市川 宏介 (仙台市立長町小学校)
戸村 隆 (仙台市立東二番丁小学校)
小室 安子 (仙台市立北仙台小学校)
安積 章彦 (仙台市立館小学校)
三浦 裕介 (仙台市立錦ヶ丘小学校)

事務局 (仙台市立若林小学校 TEL022-286-2735)

阿部 謙
山口 明男
佐藤 晶子

「理科教育のあゆみ」第54集

平成28年2月

発行者 宮城県連合小学校教育研究会

※本誌に掲載されている発表は、下記の市教研理科研究部会のウェブページでも見られます。

<http://www.sendai-c.ed.jp/~shorika/>